

ネパールを訪ねて

2015年11月 淡路千鶴子

2011年の夏から3人の子どもたちの応援をさせていただいて、4年目にして初めてネパールを訪問しました。

今年の4月末と5月に大きな地震が2回あり、新聞やニュースそして7月の総会でお見舞いに出かけた理事長のネパール視察のビデオを見て、いろんな場所の世界遺産が大変な壊れかたをしていました。

半分傾いている建物中に人が住んでいるのには本当に驚いてしまいました。私たちが行った時、唯一物資が入って来るインドからの税関がストップしていて、一番必要なガソリンも9月27日から入ってこず、移動するのも毎日がガソリンを入れられず普段より車が少なく走りやすかったようです。

観光客が使う車は優遇されていて2日に一度100ぐらい入れられたようです。



修復中の世界遺産／写真・平間さん提供

どこのガソリンスタンドにも何百メートルも車の列が出来ていました。

そんな中、私たちはカトマンドゥから車で3時間半ダディン郡に行き、4時間も歩いて子供達12人がマイディ村から待ち合わせの場所に来てくれました。

私達に会う為にせいいっぱいおしゃれをしてきた子。子供たちに会った瞬間、胸が熱くなりました。

その中に鈴木さんの知り合いで日本からネパールの栄養指導に来ている JICA の阿部さんも来てくれていました。彼女の仕事はネパール人の栄養指導と管理。たった一人でネパールの田舎に暮らしているのを見て、感動しました。

彼女の通訳で子供達と話しをすることも出来ました。

私が4年前から応援しているサミール君は13歳なのに日本の小学3年生くらいの身長しかなく、畑でとれている物しか食べていないので栄養不足だと感じました。

昼食を食べて、持って行った風船やシャボン玉で遊んでいると又4時間歩いて帰る子供達との別れがアツという間に来てしまいました。一人一人の子供達全員とハグをして別れました。元気に帰っていく子供達を見送りながら、泣いてしまいました。

カトマンドゥは日本の50年前を思わせる都市でした。インフラ整備の遅れは国にお願いしても、将来を担う子供達が全員、一日も早く教育を受けられるように願うと同時に、私達の応援がもっとも必要であると実感して帰ってきました。

これから私達の目標はマイディ村に地域からのコミュニケーションの為に施設を建てること、そして学校で給食を食べられるようになる応援をしていくことだと思います。

皆さんにも是非ネパールに行って子供達に会っていただいく事を願っています。



【前列左から】プルナマヤさん(No.53)、アプサラさん(No.47A)、スジャータさん(No.4)、保護者

【後列左から】保護者、淡路さん(理事)、サンジブ理事長、片上さん(監事)